

学校の教育目標	豊かな人間性と たくましい創造力をそなえた 心身共に健全な子どもの育成
---------	-------------------------------------

学校経営の重点	評価指標	自己評価	結果の考察・分析、及び改善策等	学校関係者評価	
				評価	コメント
確かな学力の定着と向上	学習のきまりを守り、宿題や読み声、家庭学習に進んで取り組んでいる。	3.1	・タブレット端末を効果的に活用した授業改善に取り組んだ。 ・ユニバーサルデザインを意識した提示の仕方の工夫、1人で考える時間の確保、話し合う場の設定等をしたことで、主体的・対話的で深い学びが確立されつつある。 ・家庭学習の取組は、毎週木曜日にタブレットを持ち帰り、家庭学習の課題とした。今後、学力向上になったのか検証が必要である。	3.6	・子ども達の読書が少なく感じる。 ・「読書が好きになる手立て」は、難しいことではあるが、興味ある本と一緒に探して採り、図書館に連れて行って、学校にはない図書をみせるなど、本の「面白さ」に気付かせる方法も一考である。 ・授業参観をして、熱心な教育が見られた
	主体的・対話的で深い学びができる授業を創造したり、読書量を増やしたりする工夫をしている。				
	小規模校ならではの個に応じた学習指導に取り組んでいる。(遠隔授業の導入・タブレットの活用等)				
豊かな人間性の育成	道徳を中心とした心の教育により、規範意識と人権意識を高めている。	3.4	・SWPBSの取組を始め、望ましい行動について児童と目標を共有し、支援してきた。 ・いじめ・不登校は「どの学校でも起こりえる」という認識をもち、児童観察やアンケートを行い、児童理解に努めた。 ・月1回は教育相談を実施し、早期発見・早期対応を行った。また、かがやき委員会で職員の共通理解を図り、共通実践することができた。 ・年3回の真幸小との交流や高齢者クラブの方との様々な交流をとおして、児童のコミュニケーション力の向上につながった。	3.5	・子ども達からあいさつするのが少ないし、声も小さい。 ・あいさつはよく返してくれる。欲を言えば、自ら進んであいさつができるようになればよい。 ・あいさつをされると相手はとても嬉しいということをもっと指導して頂きたい。 ・これからの時代に合わせたあいさつの仕方やコミュニケーションの取り方など指導していく必要がある。
	児童が自分から進んで、元気のよいあいさつができるよう指導している。				
	様々な体験活動を通して、協調性やコミュニケーション力が伸びてきている。				
健康で安全な学校	児童一人一人に合った体力づくりに取り組んでいる。(体力向上プランに基づく体力づくり)	3.4	・本年度は、学校保健委員会で全児童・保護者を対象に、スクールカウンセラーを講師として招き、「アンガーマネジメントと困った時のSOSの出し方」の研修を行った。 ・体力の向上では、体育主任を中心に、個々の課題に応じた手立てを講じてきたことで、全体的な体力の底上げができた。 ・本年度「危機管理マニュアル」を根本から見直し、避難訓練を工夫して実施したことで、安全への意識の向上を図った。	3.6	・食べ物の好き嫌いが多いように思う。 ・日々の学校生活の中で、子どもの安心安全を考えて環境づくりがなされている。 ・外遊びの減少や核家族化により、友達や家族での遊びや手伝いを通しての体力の向上が難しいと思う。
	基本的な生活習慣のもと、健康や安全に気を付けて生活している。				
	安全点検や避難訓練の充実等を通して、危機回避能力の向上に取り組んでいる。				
地域に開かれた学校	地域の力を活用した学習や学校行事等を通して、ふるさとを大切に思う児童が育っている。	3.5	・芋の苗植えや芋掘り、グランドゴルフ交流など地域の方々と楽しく交流して、ふるさとを思う気持ちが高まった。 ・月1回の学校便りやマチコミメールなどによる情報発信、週2回のホームページ内の学校日記・行事予定の更新を行い、情報発信を行った。	3.7	・岡元小の子ども達の人数が年々減少していくので、近隣の学校との交流や地域の方との交流を通して、ふるさとを思う気持ちを育んでほしい。
	授業参観や各種通信、HP、まちコミメール配信などで適宜学校の様子を知らせている。				